

# 糺 県政 レポート

KIZUNA

【平成28年3月号】

市政と県政の  
強固な架け橋



## 神奈川モデル創造発信予算 ～いざ！ネクストステージへ～

平成28年第1回定例会が3月24日に閉会しました。本定例会では『平成28年度神奈川県の一般会計予算』などの提案が可決され、一般会計予算は過去最大となる、2兆137億円が計上されました。28年度当初予算は、県の総合計画“かながわグランドデザイン”を策定して初めての当初予算であり、この計画で掲げた施策を推進するための予算として編成されました。かながわの魅力を発信するためラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、人を引き付ける神奈川づくりを加速させるほか、未病を治すことによる健康寿命の取組みなどの強力に推進し、神奈川から経済のエンジンを回していくとしている。また、財政健全化のさらなる推進をして、今後も介護・医療・児童関係費や、公共施設の老朽化対策に多額の費用が見込まれることから、財政健全化へ向けての取組みは、着実に推進していくとしています。

### 会計別予算額

初の2兆円突破！

区分	平成28年度 当初予算額 A	平成27年度 6月現計予算額 B	伸率 A/B
一般会計	2兆137億円	1兆9,685億円	102.3%
特別会計	1兆2,477億円	1兆3,034億円	95.7%
企業会計	1,082億円	1,123億円	96.4%
総計	3兆3,698億円	3兆3,842億円	99.6%

### 県税の内訳

区分	平成28年度 当初予算額 A	平成27年度 6月現計予算額 B	伸率 A/B
個人県民税	4,783億円	4,671億円	102.4%
法人二税	2,810億円	2,417億円	116.3%
その他	4,953億円	5,013億円	98.8%
合計	1兆2,547億円	1兆2,101億円	103.7%

◇一般会計総額は2兆137億円。予算規模は過去最大で県政史上初めて2兆円を突破しました。また、特別会計、企業会計を合わせた全会計の合計は3兆3,698億円となっております。

◇県税収入全体では、1兆2,547億円となる状況で、前年と比較して伸び率は103.7%となります。

## 県道42号藤沢座間厚木線 道路災害防除事業 予算化

県では、地震、台風、集中豪雨等の自然災害に対する安全度を高めるために、危険が予見される土砂崩壊対策箇所（法面等）の整備を行うと共に、トンネル等の補修整備や点検を実施しています。平成19年度に実施した防災総点検において、約700ヶ所の危険箇所を抽出し、防災カルテを作成しています。このうち対策工事が必要と判断した箇所は約400ヶ所あり、順次工事を進めており、平成26年度末までに約240ヶ所完了しております。また、防災カルテを作成した危険箇所については毎年専門技術者による点検を実施し、経年変化による現状を確認しています。県道42号線藤沢座間厚木線においては、私が市議会議員となつた3年前、地域住民の方から、道路斜面が危険との声が寄せられ、要望を出しておりました。県としてもこの路線において、調査、点検を進めてきた中、平成28年度の道路災害防除事業、全体計画280mのうち、一定区間が予算化されました。私も予算委員会の場で、災害に備えた社会基盤整備として、道路の防災対策について質問をさせていただき、その中で藤沢座間厚木線においても、整備の必要性、予算案が可決された後には、一日も早く事業に取り掛かっていただくことで、近隣住民も安心できると要望をさせていただきました。計画区間、全ての整備が1日も早く完了できるよう、引き続き努めてまいります。



土木事務所所長・担当課長  
より説明を受ける



予算化された藤沢座間厚木線

# 市町村地域 防災強化事業

《質問》平成28年度予算案に新規事業として提案されている市町村地域防災強化事業は超過課税を活用した事業で、消防団の充実強化を重点事業に位置づけ、支援を拡充していくと承知しておりますが、その狙いについてお伺いいたします。

《答弁》消防団は発災直後の住民の救出、救助、消火や津波の避難誘導など様々な活動に携わります。新年度にスタートする地震防災戦略の減災目標の達成に向けては、自助・共助の取り組みが不可欠であり、中でも消防団は共助の中核ですので、地域防災力のさらなる向上を目指し、支援を拡充するものでございます。

《質問》それでは新規事業の市町村地域防災力強化事業では、消防団に対する支援はどのように拡充していくのか、お伺いいたします。

《答弁》市町村地域防災力強化事業では大きく3つの点で拡充をしたいと考えています。1点目は補助



(写真)座間市消防団  
国内最高水準の装備!

耐熱性や運動機能が飛躍的に  
向上し安全性が高まる

率です。消防団の施設、資機材の整備について、これまでの3分の1から2分の1に引き上げます。2点目は補助対象です。これまで消防団車両は対象となっておりませんでしたが、新たに補助対象に加えます。3点目は補助上限額です。自助・共助関係の支援全体で、1市町村当たりの上限額1,500万円を3,000万円に増額するとともに、さらに人口規模に応じて加算します。以上、3点の拡充によりまして、消防団の施設、資機材の整備を一層促進してまいります。

《質問》消防団車両も対象となったとのことであります。私も詰め所の整備において、昨年の6月の一般質問でも取り上げました。東日本大震災でも多くの消防団の詰め所が倒壊をし、車両、資機材を取り出すことができず、本来の機能を果たすことができませんでした。今回の支援事業を拡充していただいたことは高く評価をし、詰め所の整備はこれまでより進むことも期待できますし、そして整備されることにより、団員の確保にもつながるのではないかなどと思っておりますが、そのことに対する意気込みをお答えください。

《答弁》新年度にスタートする補助制度は、委員が申し上げられましたとおり、大幅に補助制度は拡充する予定でございますので、詰め所を初めとした消防団の施設、資機材につきましては整備が一層促進されるものと期待しております。県といったしましても、共助の中核である消防団の充実、強化が一層図られますよう、市町村に対して積極的な働きかけを行ってまいりたいと考えております。

## 災害に強い国土づくり・知事決意

《質問》超過課税を活用して、災害に強い国土づくりを進めていくことは、県内の法人の方々が安全で安心して経済活動、社会活動を行っていくために必要なことだと認めていただいているものと受けとめております。そこで、災害に強い国土づくりを進めていくため、どのように取り組んでいくのか、知事の決意をお伺いいたします。

《答弁》本県では首都直下型地震の発生が懸念されており、それだけではなく最近は箱根火山、近年増加しているゲリラ豪雨、こういった自然災害の対応も大きな課題となっているところであります。そこで、県民の命、そして企業の活動を守る取り組みを一層強化するために、超過課税措置による財源を活用し、災害に強い国土づくりに取り組んでいるところであります。具体的には、四つの柱に沿って進めます。

一つ目の柱は、地震・津波対策の一層の強化であります。地震防災戦略に沿った減災対策や市町村の行う地震防災対策への支援などを行います。二つ目の柱は、火山、豪雨台風などの自然災害対策であります。箱根山の監視体制の強化やゲリラ豪雨、台風に備えた河川等の整備などを進めます。三つ目の柱は、災害に備えた社会基盤、施設の整備であります。トンネル、橋などの安全性を向上させます。そして、四つ目の柱、これは災害時に重要な役割を果たす県有施設や県立学校等の耐震改修であります。災害時の避難所や帰宅困難者の一時滞在施設に指定されている県有施設、警察署、県立高校などの耐震改修を進めてまいります。思い起こせば5年前の3月11日、東日本大震災が発生した日でありますが、実はその直前に私は神奈川県知事への突然のお話をいただいておりましたが、その時点ではまだ迷っておりました。しかし、この大きな震災という中で神奈川県知事へと声をかけていただいているということがまさに天の声であると、そう感じて出馬を決意したところがありました。そういう意味からしますと、この問題は私の知事としてのまさに原点だと考えております。今後も災害に強い神奈川づくりを必死で、全力を尽くして目指してまいりたいと思います。

《要望》東日本大震災以降、これまで経験をしたことがないような自然災害に国内各地で見舞われております。災害は待ったなしです。28年度、新たに神奈川県地震防災戦略がスタートするわけであります。知事が先頭に立ち、県と市町村が一つになり、災害に強い神奈川の実現に向けてしっかりと取り組んでいただくことを強く要望します。

## さがみグリーンライン自転車道 建設促進議員連盟結成

昨年の12月17日に『さがみグリーンライン自転車道』の関係市町選出である、平塚市選出森正明議員、海老名市選出長田進治議員、寒川町選出山本哲議員、私の4名で『さがみグリーンライン自転車道建設促進議員連盟』結成しました。さがみグリーンライン自転車道は相模川の河川堤防等を利用し、厚木市と座間市を結ぶ座架依橋から相模川河口の湘南大橋までの延長約21キロメートルの自転車道です。このうち平成27年3月に全線開通したさがみ縦貫道路と並行する海老名市河原口から寒川町一之宮までの約10キロメートルの区間を先行整備区間として位置づけ、現在は海老名市内の約800メートル区間を供用しています。自転車歩行車道の全幅員は、7.0mとされており、国内では同様の自転車道はあまり例がないとのことです。全区間が完成すれば、座間から平塚間を自転車で約30分で行くことが可能で、乗換えを考えると電車より早く、相模川の豊かな自然を利用した地域の魅力づくりや、利用者の健康増進にもつながります。様々な課題もありますが、今後も実現に向けてしっかりと取り組んでまいります。



(写真)昨年12月17日議連勉強会の様子

◆◆◆県政報告会のご案内◆◆◆  
日時:平成28年5月13日(金)19時~  
場所:ハーモニーホール座間 小ホール  
(住所:座間市緑ヶ丘1-1-2)  
問合せ:046-244-0281



平成28年2月7日(日)  
《芥川かおる新春のつどい》が開催されました。おかげさまで大盛況となりました。ご来場くださった皆さま、お忙しい中誠にありがとうございました。

[発行元]芥川かおる事務所

TEL046-244-0281 FAX046-244-0481

